

本人の選択を信じる

十八十色

13

子どもたちの今

ひきこもり傾向のある若者の相談を定期的に受けています。そこでは20〜30歳代の様々な若者に出会います。今回は、昨年1月に出会った20歳代のI君をご紹介します。

彼は高校に進学後、学校生活にうまくなじめず2年で休学し、復学を目指したものの、戻れずに退学してしまいました。

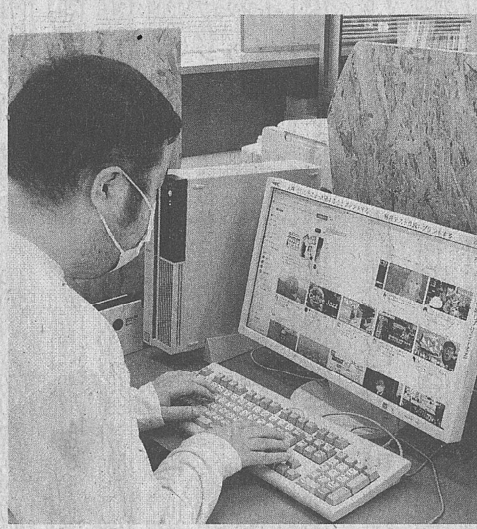
その後、シングルマザーの母親の経済的負担を減らしたいと、ドラッグストアなどでアルバイトをしましたが、職場での人間関係がしんどくなり、出勤日になるとおなか痛くなって休みがちに。数か月後には辞め

ひきこもりから「ユーチューバー」へ

てしまいました。その後は外出が減り、ひきこもるようになりました。

昨年1月、I君を支援するNPO法人からの依頼で相談を受けることになりましたが、最初は表情が硬く、言葉を発することもありませんでした。しかし、彼の趣味であるゲームの話題に変えたとたん表情が一変し、自分のことを語ってくれるようになったのです。

それから1年余り。毎月、相



ユーチューブで動画を配信する若者（写真と文は関係ありません）

談を重ねるうち、学童保育所でアルバイトを始め、テーブルゲームカフェのイベントを開くなど外出の機会が増えていきました。

そんな彼はこの夏、新たに動画投稿サイト「ユーチューブ」にゲーム実況のチャンネルを開設しました。理由を尋ねると、「自分が楽しんできて、不安な時に気持ちを和らげてくれたゲームの面白さをみんなに知ってもらいたいから」と言います。

今も、気持ちの浮き沈みはありつつも、ゲーム実況の配信を毎週欠かさず続けていることが、彼の自信になっています。最近では、視聴者とのチャットを通じて、人と交流する大切さも実感しているようです。

大人は子どもが自ら選び、決めたことを信じ、見守ることが大切なんだと、改めて感じています。

（発達支援塾アットスクール代表 鈴木正樹）